北杜市

5種混合ワクチン予防接種を受ける前に

1　病気の説明

●ジフテリア

のどや鼻に感染する病気です。発熱、嘔吐、のどの痛み、犬吠えのようなせき等の症状があり、偽膜と呼ばれる膜ができ、窒息して亡くなることがあります。

ジフテリアに感染すると、一般に10％程度の方が、特に5歳以下や40歳以上の方は重症化しやすいため最大で20％の方が、亡くなるといわれています。

●百日せき

風邪のような症状で始まり、コンコンとせき込んだ後に、ヒューという笛のような音を立てて息を吸う特有のせきが出ます。

徐々にせきがひどくなり、顔を真っ赤にして連続的にせき込むようになります。せきは連続性・発作性となり長期に渡って続き、せきが原因で眠れなかったり、顔が腫れることもあります。

年齢が低いほど症状は重く、無呼吸発作やけいれんを引き起こすこともあります。けいれんや肺炎・脳症等の重い合併症から命を落とすこともあります。

●破傷風

土壌中の菌が傷口から体内に入ることによって感染する、死亡率が高い病気です。

口が開きにくい、顎が疲れるといった症状に始まり、神経麻痺、筋肉の激しいけいれん、呼吸困難等を引き起こし、歩行や排尿・排便の障害等を経て、最後には全身の筋肉が固くなって体を弓のように反り返らせたり、息ができなくなったりして、亡くなることもあります。

●ポリオ（急性灰白髄炎）

ポリオウイルスが口から入り、腸の中で増えることで感染する病気です。

「小児まひ」とも呼ばれ、四肢に麻痺を引き起こします。腸内で増えたポリオウイルスは、再び便の中に排泄され、この便を介して更に他の人に感染します。日本では高いワクチン接種率により自然感染による患者発生はありませんが、海外渡航者・帰国者から感染することがあります。

●Hib感染症

ヘモフィルスインフルエンザ菌b型という細菌によって発生する病気です。

主に気道の分泌物により感染を起こし、症状が無いまま菌を保有（保菌）して日常生活を送っている子どもも多くいます。この菌が何らかのきっかけで進展すると、肺炎、敗血症、髄膜炎、化膿性の関節炎等の重篤な疾患を引き起こします。

他の多くの細菌やウイルスとは異なり、乳幼児に感染しても抗体（免疫）が出来ず、繰り返し感染することもあります。そのほとんどが5歳未満（特に乳幼児）で発生するため注意が必要です。

Hib感染症は冬に流行するインフルエンザ（流行性感冒）の原因である「インフルエンザウイルス」とは全く別のものです。

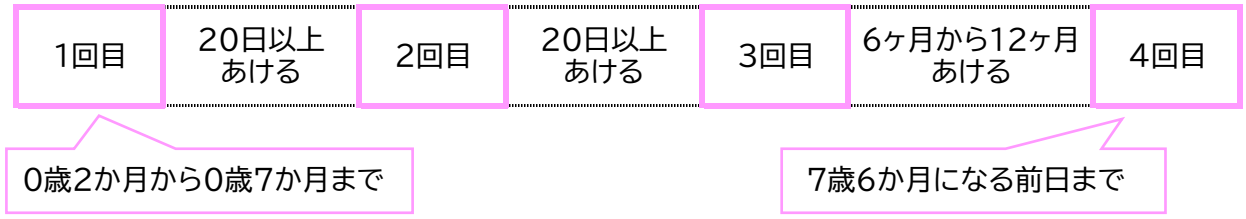
2　ワクチンの説明

5種混合ワクチンを接種することで、ジフテリア、百日せき、破傷風、ポリオ、Hib感染症（インフルエンザ菌b型）への感染を予防できます。

●副反応

〇主な副反応は、注射した部位が赤くなる（紅斑）、しこり（硬結）、腫れる（腫脹）局所反応です。発熱を認めることもあります。

〇重大な副反応として極めて稀に、ショック、アナフィラキシー、血小板減少性紫斑病、脳症、けいれんがみられます。

●接種の標準的な時期　初回接種＝3回、追加接種＝1回、合計4回接種する

生後2ヶ月から7か月の間に3回接種します。3回の間はそれぞれ20日以上の間隔をあけて、3回目から4回目の間は6ヶ月～12ヶ月の間隔をあけて接種します。